



ブナセンターだより 8月号

発行：ブナセンター No.338 2021, 8, 1

今月のごあんない 森へ行こう

「光る！夜の森たんけん」

夜の森へでかけてみましょう。天候によってはホタルや星など、この季節ならではの「光るもの」が観察できます。ほかにもいろいろな光を利用して「夜の森の生きもの観察」に挑戦します。

【日程】8月1日(日)

【時間】18:00~20:30

【場所】ブナセンター周辺、森林公園

【集合場所】ブナセンター(18:00)

または町民センター(17:45)

【持ち物】野外で活動できる服装、飲み物、雨具、長靴、あればヘッドライト

【参加費】300円 ※「ブナさぼ」のメンバーは無料

【申込み】前日17:00までにブナセンターへ

◎雨天の場合は8月7日(土)または8日(日)に延期



新型コロナウイルス感染症対策

- ◎参加の際は、検温への協力とマスクの着用をお願いします
- ◎感染状況によっては中止や内容等を変更する場合があります

ブナセンター講座

「学芸員ミステリーツアー」

ブナセンター学芸員が「いちおし！」の場所に出かける行先ヒミツのツアー。今回の行先のヒントは「おとなりのブナ林」であり「北海道・最後の秘境」といわれる森。どこだかわかるかな？

【日程】8月28日(土)

【時間】9:00~15:00

【集合場所】町民センター 【定員】15名

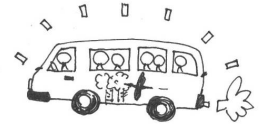
【行程】町民センター発→バスで移動(1時間30分・途中休憩あり)→ブナ林見学(1時間30分)→昼食→バスで移動→町民センター着・解散

【持ち物】軽登山の服装、昼食、飲み物、着替え、雨具

【参加費】300円 ※「ブナさぼ」のメンバーは無料

【申込み】25日(水)17:00までにブナセンターへ

◎雨天決行(荒天中止) ※詳しくは回覧のチラシで



ブナセンターの夏休み

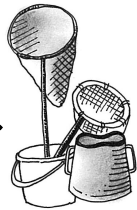
7月21日から8月15日まで休まず開館します

貸し出します

夏休みの定番！朱太川・せせらぎ公園での魚とりや、添別川での貝化石とりに活躍する道具を貸し出しています。



◇無料のもの：箱めがね、網、バケツ
貝化石探りの道具各種
(ドライバー、くぎ、スコップ、
クリーニング用ブラシなど)



◇有料のもの：釣竿(50円)
見釣り用のミニ竿(50円)

やってみよう

◆「ブナ・パーク」で木と遊ぼう

ブナセンター駐車場横の林に、自然を生かした遊び道具を設置しています。天気の良い日に開園します。ご家族で来てね。

◆「夏の森・ウォークラリー」

ブナセンター近くの「ブナの小道」(30分)と「森林公園」(1時間)の2つのコースがあります。どなたでも挑戦できます。参加した方には記念品をプレゼント！



夏休みの自由研究をサポートします

黒松内の自然をテーマにした「夏休みの自由研究」をお手伝いします。ブナセンターおすすめの自由研究の見本を展示するほか、個別の相談にも応じます。※個別相談は町内小学生対象、7/26~7/30の期間、お電話にて受け付けます。



陶工房・木工房からのお知らせ

夜間開放のご案内 (工房使用料が無料となります)

毎週木曜日 18:30~20:30

◎8月12日はお休みします



※材料費は別途

陶芸をやってみたい方へ
初心者の方にはブナセンター
スタッフが指導します(事前に
ご予約ください)。

初めての方、お気軽にご相談ください。
まずは工房の見学をおすすめします！



木工をやってみたい方へ
ブナセンタースタッフの指導は
つきませんが、道具の使い方
などの説明はします。

黒松内の樹木⑧

ヤチダモ谷地櫛

ヤチダモ (*Fraxinus mandshurica* var. *japonica*)
 モクセイ科トリネコ属
 北海道・本州・朝鮮半島に分布する落葉広葉樹

遅く芽吹いて、早く散る

ヤチダモは、葉をつけている期間がとても短い樹木です。ブナが5月上旬～10月下旬と約6ヶ月間、葉をつけ光合成するのに対し、ヤチダモは5月下旬～9月下旬の約4ヶ月間で、約2ヶ月の差があります。

春先、真っ先に葉を開けば、他の木に邪魔されずに太陽光を独占することができます。しかし、5月上旬頃までは朝晩の冷え込みによる霜の害のリスクもあります。

ヤチダモは、光を独占することよりも、葉の安全を重視しているのかもしれませんが。

「どのタイミングで葉を開くのか」ということひとつとっても、そこには、それぞれの樹木が生き残るための多様な戦略があるのです。

寺の沢川のヤチダモ

黒松内の町中を流れる寺の沢川。川沿いにはフットパスコースも整備され、日々のウォーキングに活用される方も多いのではないのでしょうか。

体育館から保育園のあいだの道沿いには、高さ20mを越す立派なヤチダモが立ち並んでいます。ベンチのすぐ横にも生えているので、これからの季節はヤチダモの木陰で一休みも良いですね。



アイヌ語でヤチダモは“ピンニ”で「男の木」という意味（※諸説あり）。丸木船、クマの檻、川の梁杭などに使われました。ただし、丸木船には材が重すぎたため、カツラの方が好まれたということです。

ヤチダモのキャラクター **ピンタ**

くろまつないの樹木キャラクター

オリジナルの樹木キャラクターを毎号紹介しています。ブナセンターにて全13種類のキャラカードを配布中です！

「すらりとした長幹と長い羽状の複葉とを有し、その色は涼しい緑色である。垂直線の美はこの木によく見ることが出来る。枝は細く長く伸びて優しい。樹皮も細く整正に裂けて快感をあたえる。」

※「森林美学[復刻版]」新島善直・村山醸造北海道大学図書刊行会より一部抜粋。古い言葉遣いは修正

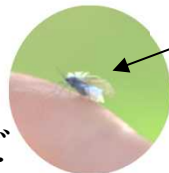
歌オブナ林の天然記念物指定に尽力した新島善直氏（札幌農学校・林学博士）は、ヤチダモをこのように記しています。「谷地」と名にあるように、湿潤な環境を好む樹木で、直線的ですらりと伸びる樹形は、冬でもよく目立ちます。



ヤチダモの葉はとても大きい。「羽状複葉」といい、7～11枚の「小葉」で1枚の葉を構成している。

ヤチダモには「オスの木」と「メスの木」がある

種子 →



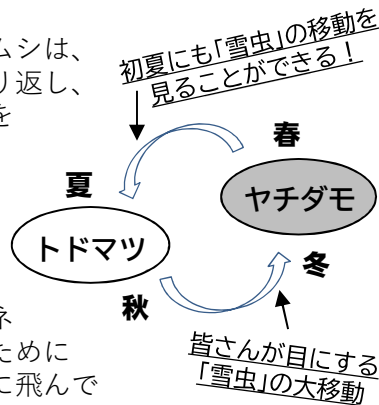
「雪虫」ことトドノネオオワタムシ。翅をもつ世代の成虫はからだが白い蠟物質におおわれている。

雪虫のゆりかご

10月中旬、初雪が降る頃になると「雪虫」がふわふわと舞い飛びます。正式名称はトドノネオオワタムシ。アブラムシの仲間です。

このトドノネオオワタムシは、季節ごとに世代交代を繰り返し、ヤチダモとトドマツの間を行ったり来たりしながら生きています。

皆さんが秋に見かけるのは、夏の間トドマツの根っこで樹液を吸いながら過ごしたトドノネオオワタムシが、産卵のためにヤチダモを目指して一斉に飛んでいる姿なのです。



【8月の休館日】

16・17日 / 23・24日 / 30・31日
 夏休み期間（7/21～8/15）は休まず開館します
 （ブナセンターは通常毎週月曜日と火曜日が休館日です）

- 「ブナセンターだより」はブナセンターHPからPDFファイルをダウンロードできます。
- 「ブナセンターだより」郵送ご希望のかたは、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、希望回数分の84円切手を同封してブナセンターまでお送りください。

発行所：黒松内町ブナセンター

〒048-0101 寿都郡黒松内町字黒松内 512-1 TEL (0136)72-4411 FAX (0136)72-4440

メール bunacent@host.or.jp HP <http://bunacent.host.jp/> fb <https://facebook.com/bunacent.kuromatsunai/>